

2022 年度女子大合同就活ゼミの取り組み

～学生満足度向上と入試広報への貢献に関する考察～

矢島 慶佑¹

2022 Women's University Joint Job Hunting Seminar Efforts ～A Consideration on Student Satisfaction Improvement and Contribution to Admissions Public Relations～

YAJIMA Keisuke

1. はじめに

2020 年から広がり始め、私たちの生活に大きな変化を与えた新型コロナウイルスの影響は、新卒の就職活動にも多大な影響を及ぼしてきた。それまで開かれていた学内での集合型就職セミナーは全て廃止となり、大学での就職活動支援はオンラインでの開催を余儀なくされた。これまでは学内で友だちと顔を合わせることでできた就活の情報交換もできなくなり、いわゆる「ボッチ就活」となることで学生たちの就活への不安はますます広がっていった。そこで、何かできる支援はないかと考え始めたのが女子大合同就活ゼミの取り組みである。本報告では、大学合同就活ゼミにおける学生満足度向上と入試広報への貢献に関する考察について 2022 年度の取り組みと 2023 年度に向けた展望と課題を記載するものである。

2. 女子大合同就活ゼミについて

女子大での就活ゼミはオンライン就活となった 2020 年に学習院女子大学・東洋英和女学院大学にてそれぞれ単独で開始され、翌 2021 年度から合同での開催となった。2021 年度は学習院女子大学・実践女子大学・津田塾大学・東京女子大学の 4 校合同で開催、2022 年度は新たに昭和女子大学・聖心女子大学・東京家政大学・東洋英和女学院大学・和洋女子大学が参加し、9 女子大合同での開催となった。

3. ゼミ開催の目的と効果検証の方法について

本ゼミ開催の目的は以下の 2 点である。

1. 学生の参加目的として、たて・よこ・ななめのつながりを作ることで就活への不安を軽減し、自分らしく就活に取り組むことで自分の進路を納得した形で決定すること

¹ 昭和女子大学現代ビジネス研究所 研究員

2. 大学の参加目的として、学生の就職支援を行うことがひいては大学のブランディングにつながり入試広報に貢献すること

また、効果検証の方法については以下としている。

1. 学生の効果検証は学生満足度調査とアンケートへの自由記載内容で検証
2. 大学の効果検証は入学志願者数の増加と入試広報への記載内容で検証

4. 2022 年度取り組み報告について

2022 年度は 9 大学の 3 年生合計約 600 人の学生が参加し、合計 98 回の講義を開催。

各目的の達成状況については以下の通りである。

1. 学生の効果検証について 以下の結果より目的を概ね達成できたと判断できる
 - ① 各講義後にアンケート調査を実施し、学生満足度は 98.4%であった。
 - ② 自由記載欄の主なコメントとして記載されていた内容は下記のとおりである。

「入学時からオンライン授業だったため学内にも友だちができていなくて就活が不安だったが、学内はもとより学外にも友だちができたので 1 人にならず就活に取り組むことができている」

「志望している企業の内定者が所属大学にいない中、就活ゼミに所属している他大学の先輩で内定者がいたのでいろんな相談ができて助かっている」

「これからも就活ゼミでできた友だちと一緒に就活を頑張りたい」
2. 大学の効果検証について 以下の結果より検証不能と判断
対象学生の就職活動結果が出揃っていないため入試広報に活動結果を記載することができず、検証不可能であった。

5. 2023 年度への展望と課題について

2023 年度は新たに 2 大学が参加予定で、11 大学合同での開催が予定されている。参加大学数が増えることで学生にとって更にたて・よこ・ななめの関係築くことができるチャンスになる一方、運営側の課題として一人ひとりの学生への接触頻度が下がることによる満足度低下は避けなければならないと考える。また他方、合同開催 3 期目となり 1 期生の就職活動の結果が出揃い入試広報への影響も調査できる状態となってきたため、大学側の目的についても達成度を調査し本活動が大学の入試広報に貢献できるか検証することで、今後本取組がさらに拡大していくきっかけとしていきたいと考えている。

<参考文献>

- ・大学教育学会 課題研究「大学教育における質的研究の可能性」グループ(2021)
『コロナ禍で学生はどう学んでいたのか』～質的研究によって明らかになった実態～
ジアース教育新社